

## キーワード9 関心・承認

1学期も半ば、中学1年生の担任S教諭は、たまたま休み時間に  
出会った受け持ちのTさんに、親しみを込めて「部活は何に入っ  
てるんだっけ?」と声をかけた。

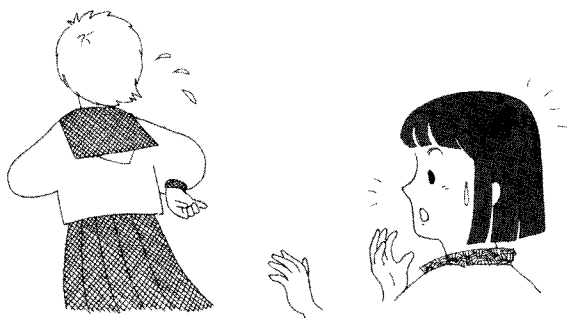
すると、Tさんは一瞬とまどった表情を見せ、

「あの…、バスケットボール部です。」

と小さな聞き取れぬほどの声で答えると、顔を真っ赤にしてその場  
から走って行ってしまった。

その瞬間、S教諭は顔から火がでるような思いに駆られた。バス  
ケットボール部は、S教諭が顧問している部だったからである。

1年後に生活指導部の調査が、全校生徒を対象に実施された。そ  
の質問に、「学校で嫌だったことは何?」という項目があり、「担任  
が顧問をしている部活に入っているのに、『部活、何に入っている  
の?』と言われたとき。」という答えがあった。S教諭はあの日す  
ぐに謝りはしたものの、Tさんの心の中に深い影を落としていたこ  
とを知り、愕然とした。



事例のように、教師のうかつさで子供の心を傷つけてしまうことがあります。子供への日ごろの関心のもち方が大事です。

### 名前覚えていますか？

教師に名前を覚えられることは、教師に親近感をもつ第一歩です。新しい学級になり、何日過ぎても名前と呼ばれずに「おい！そこの後ろ。」と言われると、子供はがっかりしてしまいます。「あの先生は自分の名前を覚えているから、悪いことはできない。」と言う子供もいます。名前を覚えることは、子供に「責任をもった存在としての自覚」を促します。

### ささいな変化に気づく

「昨日と違うネクタイをしている。」などと、子供は教師の服装にとっても敏感です。同じように子供は、自分の身なりの変化にも関心をもってもらいたいと思っています。朝早く、玄関で担任が来るのを待って、「先生、この靴昨日買ってきたんだよ。」と声をかけてくる子供がいます。子供の身なりやちょっとしたしぐさにも関心をもち、ささいな変化に気付く心配りが大事です。

### 関心は理解への窓口

教師が一人一人の子供に関心を寄せることは、子供理解の窓口です。肯定的な関心の日常的な形は、まずあいさつです。「Aさん、おはよう。」の一言で、子供は自分の存在を認めてもらえた喜びを感じます。また、廊下ですれ違う子供に「Bさん、元気？」と軽く声をかけるなどの積み重ねが子供理解の素地を作ります。